

むつごろう通信

12号

2007年

11月1日発行

着任のご挨拶

沿岸域社会計画分野

五明 美智男客員教授



4月1日付けで沿岸域環境科学教育研究センター客員教授に就任いたしました。東京水産大学で漁場造成の勉強をした後、海洋・港湾工事を得意とする建設会社の研究所で、内湾の水底質環境や環境関連の施工法、港湾・海岸の構造物や被災などの技術開発研究をしてきました。この度有明海をフィールドとする研究機会をいただき、有明海の干潟スケールの大きさをしっかりと受け止めて初心にかえり、フィールドを見て感じることから一歩ずつ進めていきたいと考えています。企業の技術開発現場の視点で、大学や地域の皆さんと関わることで、より実践的な研究ができればと思っています。

振り返れば、天草で港湾工事に携わった昭和と平成の移り変わりの頃、熊本から天草へ向かう有明海沿いの道路護岸上に、お土産のアサリを売る地元の方たちを多く見かけたことを思い出します。パラベットの向こう側に興味を持ちながらも現場の仕事に没頭してしまい、泥まみれにならずに過ごした当時を反省しつつ、大いに干潟を歩き回る予定です。よろしくお願いいたします。

村野 昭人客員准教授



はじめまして。4月1日付けで沿岸域環境科学教育研究センター客員准教授に就任いたしました。2002年に大阪大学大学院 工学研究科環境工学専攻において学位取得後、国土技術政策総合研究所の任期付研究官、東洋大学地域産業共生研究センターの研究助手を経て、現在は東洋大学の特任講師をしております。これまで、ライフサイクルアセスメントを用いて、都心地域を対象とした環境負荷発生量の分析、運輸部門を中心とした港湾施設の環境負荷発生量の分析、解体廃木材・コンクリート廃材を対象とした再資源化技術の評価、企業における資源循環に伴う環境負荷削減効果の評価などをテーマに研究を行ってきました。

当センターでは、沿岸地域における窒素や炭素などの物質収支を調査することを通じて、陸域の活動が有明海の水質・底質に与える影響を分析する研究を予定しています。海のことについては全くの素人なのですが、陸域と海をつなぐことで、地域における環境改善手法の検討に結び付けたいと考えています。よろしくお願いいたします。

「未来につなげよう！ 肥後ハマグリ」講演会



ハマグリ資源の保全と活用をテーマとした熊本市漁業振興協議会講演会が、熊本県漁業共同組合連合会で、平成19年7月25日に開催され(39名が参加)、内野センター長と逸見教授が招待されました。これは、熊本市と共に実施している政策創造研究センタープロジェクトの1つである「ハマグリをモデルとした水産資源の持続的利用のための管理技術の確立」の一環です。逸見教授が「日本のハマグリ、熊本のハマグリ」と「ハマグリ資源管理について」を講演し、東アジアにおけるハマグリ類の分布や系統、ハマグリ資源の生物学的な特徴、他地域でのハマグリ資源管理の例などを紹介しました。さらに、熊本県水産研究センターの生嶋登氏が「ハマグリ研究成果報告」を、熊本市水産振興課の中熊健二氏が「熊本市の取り組みについて」を講演されました。今後、各漁協を対象に講演・説明会を実施し、有効なハマグリ資源管理策が行われるように提言を行っていきたいと考えています。



公開講座 「有明海・八代海を科学する」 および体験実習

研究成果の地域への還元および干潟浅海域に関する環境教育の充実を目的として、平成19年10月3日～11月7日の毎週水曜日の18:30～20:00(計6回)に、一般市民を対象とした

公開講座「有明海・八代海を科学する」および熊本県水産研究センター・熊本大学合津マリンステーションでの体験実習が実施されました。有明海の問題に関する最新の研究成果を分かりやすく解説し、受講者とともに議論しました。受講者は20才から80才まで幅広く、毎回質問や議論が活発に交わされました。



第1回:10月3日
開催にあたって

内野明徳(熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター長)
「堆積物に記録された熊本沖有明海環境変化」
秋元和實(同センター准教授)

第2回:10月10日

「養殖ノリの環境ストレス応答」

瀧尾 進(同センター教授)

第3回:10月17日

「有明・八代海環境再生と防災、そして環境との調和」

滝川 清(同センター教授)

第4回:10月24日

「干潟底生生物の環境変化能力」

嶋永元裕(同センター准教授)

第5回:10月31日

「八代海の養殖業について」

「一知っていそうで、知らないこと」

中野平二(熊本県水産研究センター養殖研究部長)

第6回:11月7日

「有明海・八代海の生物と環境」

逸見 泰久(熊本大学沿岸域センター教授)

有明海・八代海再生のための 住民セミナーと意見交換会の開催

「有明海・八代海再生セミナーin有明海～有明海・八代海再生のため私たちにできること～」(熊本県主催)が、平成19年9月22日に、開催されました。この趣旨は、滝川教授が指導して纏めた「熊本県の有明海・八代海再生の基本方針(マスタープラン)」を住民に知ってもらい、皆で再生に向かって取り組もうというものです。長洲町の「ながす未来館」で、第1回が催され(約100名が参加)、滝川教授の基調講演に引き続き、森、川、海のそれぞれで活動しているNPOの事例が紹介され、その後、

住民を交えて「長洲・荒尾地域の再生方策のあり方」について活発な意見交換が行なわれました。「行政や大学等の取り組みだけでなく、地域住民や民間団体の取り組みの重要さが分かった」、「有明海沿岸市町村が再生のために協働で取り組むネットワーク化が必要」などの意見が出され、住民参加の第1歩が踏み出されました。来年2月には八代海でも計画されており、住民主体となり行政や大学等との連携体制が築かれて、有明海・八代海の再生へ繋がるものと期待されます。今後とも皆様のご理解と協働をよろしくお願いいたします。



(有明海・八代海の生物—6)

ハママツナ

河口や地下水が湧出する海岸は、潮の干満に伴って塩分が大きく変化する厳しい環境です。このような場所には、塩生植物と呼ばれる特殊な植物しか生育することができません。ヨシ・フクド・シオクグ・ハマサジ・ナガミノオニシバなどが、熊本県の海岸の代表的な塩生植物です。

ハママツナ(浜松菜)*Suaeda maritime*(アカザ科)は、高さ10~30cmのハウレンソウに近縁の一年草で、潮間帯下部のやや砂っぽい泥質の塩性湿地に群生します。長崎県・佐賀県の海岸に繁茂する同属のシチメンソウ(七面草)と同様に、秋に紅葉し、湿地は深紅のじゅうたんを敷きつめたようになります。有明海の緑川・白川河口や八代海北岸に点在しますが、十分な調査は行われておらず、熊本県レッドリストでは「情報不足」に分類されています。逸見教授は、塩性湿地の保全・再生のために、国内における本種の遺伝的類縁関係を調査し、移植による群落再生の可能性を探っています。



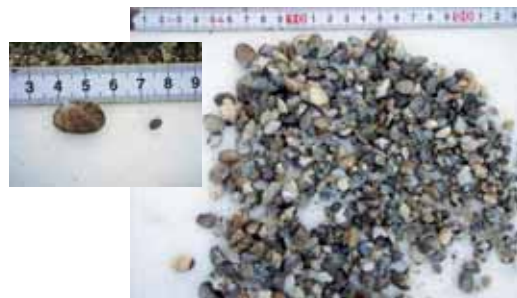
ハママツナの群落

“有明海再生の現地実証試験” 経過の続報！

文部科学省の科学技術振興調整費重要課題解決型研究「有明海再生」(熊本大学代表 滝川教授:平成17年度~)から、熊本新港北側の“北なぎさ線”(18年度造成)と、“エコテラス護岸”(19年度造成)の紹介です。平成19年10月27日に、2ヶ所の実験地、国土交通省海洋環境センター、玉名横島海岸の試験地の見学会(80名が参加)を行いました。

(1)北なぎさ線でアサリの稚貝が大量発生

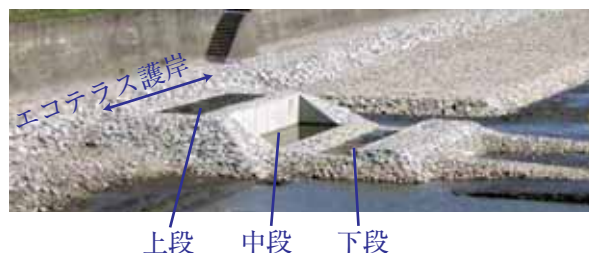
写真は、石ではなく全てアサリです。縦横25cm、深さ5cmの底泥を採取して、1.0mm目の篩で分けると、稚貝が最大850個体(1.0㎡当りに換算すると約16,000個体)残りました。なぎさ線を作ることで、沢山の生物が生息できることが、改めて分かりました。



(2)エコテラス護岸完成

今年9月に、熊本市沖新町地先(熊本港大橋南側)のコンクリート護岸の前面に、狭い場所に生物の生息場を提供する目的でテラス式の浅場を造りました。

上段のテラス干潟は塩生植物の生息に適した高さに設定し、中段は稚魚などが逃げ込めるように潮溜りにし、下段は粒度組成の異なる土砂を入れました。今後、それぞれ生態系の創生過程をモニタリングします。



お知らせ

1. RKKテレビ放送開始！「有明海の再生をめざして」

昨年度は、RKKラジオで熊本大学の放送公開講座で、有明海再生についての番組が全20回にわたり放送されましたが、その好評を受けて、RKKの自主番組としてTV放送されるものです。滝川教授が実施している有明再生の取り組みを中心に、今年10月～来年3月の6回にわたり、毎月の第4週、水曜日に、RKK“夕方いちばん(18:10～18:48)”のなかでシリーズとして放送予定です。初回は10月24日に放映されました。皆様も、是非ご覧ください。

2. 文部科学省科学技術振興調整費研究

「有明海の再生」シンポジウム

文部科学省科学技術振興調整費熊本大学研究グループの主催により、下記の日程で開催します。昨年度に引き続き、第3回目の“有明・八代海再生”に関する、熊本大学、環境省、農林水産省、水産庁、国土交通省および熊本県の取り組みの発表会です。参加費無料です。多数のご来場をお待ちしております。

日時：平成19年11月28日（水）10:00～17:00

場所：熊本大学工学部百周年記念館

(熊本市黒髪2-39-1熊本大学南地区)

3. 土木学会 第17回環境システム地域シンポジウム

「有明海の環境改善に向けた

広域管理によるアプローチ」

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター、日本土木学会環境システム委員会、NPO法人みらい有明・不知火の主催により、陸域から海域における広域からの環境管理の観点から有明海の環境改善についての今後の方向性や課題についてのシンポジウムです。参加費無料です。多数のご来場をお待ちしております。

日時：平成19年12月10日（月）13:00～17:00

場所：熊本大学工学部百周年記念館

(熊本市黒髪2-39-1)

4. 沿岸域センターの管理運営スペースが

設置されました。

沿岸域センターは、天草の合津マリンステーションを除いて、今まで占有施設を持っていませんでした。センター建物の設置を熱望しながら発足以来6年半もの間、自然科学研究科・理学部総合研究棟の2部屋(48㎡)を借用してきました。今年度から施行された全学共用スペース制度により、工学部研究棟Ⅱ-1の5階の一部のスペース(129㎡)を大学から貸与されることになり、8月1日に移転しました。

広い部屋なので、仕切を設けずに、センター長室・会議室・試料整理保管室・教員共用研究室・客員教員研究室などの多くの機能を持たせることができました。管理運営部分のみの設置とはいえ、沿岸域センターの発展に大いに寄与することが期待されます。



熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター
工学部管理棟5階（工学部研究棟Ⅱ-1 5階）

連絡先：〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

事務連絡先：熊本大学研究・国際部研究支援課

TEL: 096(342)3143 FAX: 096(342)3149

HP: <http://www.kumamoto-u.ac.jp/center-for-marine/top.htm>